

## キャベツの排水対策実証圃を設置

【平成 28 年 6 月 14 日掲載】

北広島町農業技術部会（構成機関：北広島町・広島県・JA 広島北部・JA 広島市）では、かつて町の特産品であった「キャベツ」の産地復活をめざして、「排水対策」の現地実証に取り組んでいます。併せて、ヘクター規模で生産できる「仕組み」を構築するため、収穫作業等を民間会社に委託する作業体系を検討する研究会を設置しています。

今回は、（農）きつぎ（代表理事 熊谷 荘二郎（くまがい そうじろう）、組合員 47 名）の協力を得て 1 ha の明きよの実証圃を設置しました。既存より効果的な排水かつ効率的な作業が行えるよう排水路の幅や傾斜などに加え、機械用の通路を設置したレイアウトによりほ場づくりを行いました。平成 28 年 4 月 26 日から定植を始めましたが、春の変わりやすい天候の中、排水対策により適期かつ計画的な定植や湿害回避が可能となりました。

西部農業技術指導所は、この排水対策技術を秋作でも実証し、効率的な排水対策等取り組みの事例紹介で県内他産地への波及を図ります。また、農作業委託による生産の仕組みづくりについても、秋作で受委託の試行を開始し検証する予定です。



【機械旋回通路と排水溝】



【定植 50 日後の実証圃】